

2014年3月期 期末 決算報告

2014年5月7日
株式会社 **クレスコ**
経営企画室

1.1. 決算のトピックス

連結

▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⊕ 売上高 … 220億28百万円 (前年同期比 15.7%増)
- ⊕ 営業利益 … 14億30百万円 (前年同期比 15.1%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	前年同期を5億74百万円上回り、78億47百万円(前年同期比7.9%増)
	公共・サービス分野	前年同期を4億32百万円上回り、49億85百万円(前年同期比9.5%増)
	流通・その他の分野	前年同期を17億98百万円上回り、55億69百万円(前年同期比47.7%増)
組込型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	前年同期を16百万円上回り、10億69百万円(前年同期比1.6%増)
	カーエレクトロニクス分野	前年同期を8百万円下回り、8億4百万円(前年同期比1.0%減)
	情報家電等・その他の分野	前年同期を1億78百万円上回り、16億53百万円(前年同期比12.1%増)
商品・製品販売		前年同期を上回り、99百万円(前年同期比5.9%増)

▶ 連結財政状態に関する主な事項

- ⊕ 総資産 … 151億90百万円 (前期末比9億39百万円増)
- ⊕ 自己資本比率 … 59.5% (前年度末 59.6%)

1.2. 振り返り

単体

全般傾向

- ◆ **ビジネス向けソフトウェア開発**
 - ・一般的に受注が改善傾向、特に金融関連が伸長
 - ・スマートフォン、タブレットPC関連のソリューション展開
 - ・お客様との共同開発の推進
- ◆ **組込型ソフトウェア開発**
 - ・国内メーカー向けのカーエレクトロニクス関連の案件が減少
 - ・機能安全関連ビジネスおよび近距離無線通信ビジネスの推進
 - ・新規顧客の開拓、技術者のスキルシフトに注力
- ◆ **クラウドサービス関連**
 - ⊕ 『インテリジェントフォルダ』
OEM供給モデルの拡販、プライベートセミナー開催
 - ⊕ 『クレアージュ』
サービスラインナップの充実と販売プロモーション



課題

人材の獲得と協力会社との連携強化

クラウド関連サービスの拡販

組込型ソフトウェア開発事業の再構築

1.3. 振り返り①

子会社

	クレスコ・イー・ソリューション	<ul style="list-style-type: none">◆ ERP (SAP/R3) の導入コンサルティングが伸張◆ 既存顧客への営業活動、一括案件の発掘に注力◆ 各種ソリューションの拡販や人材採用 (特に経験者) が課題
	ワイヤレステクノロジー	<ul style="list-style-type: none">◆ 受注案件が小規模化、新規案件も改善傾向にあるものの、受注不足◆ 要素技術 (Bluetooth Low Energy) をベースとした Beacon 製品の開発に着手◆ 販売チャネルの発掘や外部パートナーと連携した、提案材料の確保が課題
	クレスコ・コミュニケーションズ	<ul style="list-style-type: none">◆ スマートデバイスを活用した SI 提案を展開するも、受注減◆ 2014年1月末付にて、<u>クレスコグループとの資本関係を解消</u> (全株式譲渡)◆ 新社名「株式会社ユニフィニティー」
	クレスコ・アイディー	<ul style="list-style-type: none">◆ 主力のセキュリティロッカーの販売は、伸び悩み◆ RFID 関連の応用製品や IC タグの販売は引き合いが増加し、堅調◆ 飲食店向け「ハンディライター」の販売が貢献、応用製品の開発が課題
	アイオス	<ul style="list-style-type: none">◆ クレスコグループ内の連携により、営業機会を拡大を図るも受注不足◆ 待機要員の解消やプロジェクトの採算性向上に注力し、利益を確保◆ 営業力の強化と協力会社を含む人材の確保が課題

1.3. 振り返り②

子会社

	<p>クレスコ九州</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新規開拓を含む地場企業の案件掘り起こしを行うも、受注単価は厳しい ◆ クレスコグループとの営業連携の他、製品販売やニアショア開発で利益確保 ◆ 黒字転換。人材採用(特に経験者)、協力会社の開拓が課題
	<p>クレスコ北陸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 独自のITソリューションを武器に地場企業の深耕に注力し、受注拡大 ◆ クレスコグループでの連携を強化し、ニアショア開発の体制を整備 ◆ クレスコ・アイディーと協業開発した「ハンディライター」の拡販が課題
	<p>科礼斯軟件(上海)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中国進出企業の支援ビジネスを事業の柱に、営業活動を実施 ◆ 上海地場のIT関連企業との開発体制拡充に注力 ◆ オフショア案件も含めた案件の獲得が課題
	<p>シースリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 鉄道、ダム、電力関連の制御系システムに強み ◆ 情報系の開発案件が回復傾向にあり、要員の稼働率が安定 ◆ 交通関連システム、インフラ関連システムの更なる拡充が課題
	<p>クリエイティブジャパン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日立グループ様関連の案件を中心に稼働は安定 ◆ ネットワーク関連の技術力を武器に、クレスコグループの基盤ビジネスに寄与 ◆ 労働者派遣型の受注形態見直し(請負型への移行)に伴い利益率向上

【注】2013年4月1日に「株式会社クリエイティブジャパン」を子会社化いたしました。

2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨]

	2013年3月期 期末 ＜実績＞	2014年3月期 期末 ＜実績＞	前年 同期比	2015年3月期 中間期予想 ＜2014/5/7公表＞
売上高	19,031	22,028	115.7%	11,650
売上総利益	3,129 (16.4%)	3,724 (16.9%)	119.0%	— (—)
営業利益	1,242 (6.5%)	1,430 (6.5%)	115.1%	700 (6.0%)
経常利益	1,409 (7.4%)	1,676 (7.6%)	118.9%	750 (6.4%)
当期純利益	764 (4.0%)	941 (4.3%)	123.2%	460 (3.9%)
EPS 円/株	70.80	87.40	—	43.22

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

2.2. セグメント売上高の比較 連結

[単位：百万円未満切捨]

セグメント		2013年3月期 期末	2014年3月期 期末	増減	増減率
大区分	小区分				
ソフトウェア	金融関連	7,273	7,847	574	7.9%
	公共・サービス	4,553	4,985	432	9.5%
	流通・その他	3,771	5,569	1,798	47.7%
	計	15,597	18,402	2,804	18.0%
組込型 ソフトウェア	通信システム	1,052	1,069	16	1.6%
	カーエレクトロニクス	813	804	▲ 8	▲ 1.0%
	その他	1,474	1,653	178	12.1%
	計	3,340	3,526	186	5.6%
商品・製品販売		93	99	5	5.9%
全計		19,031	22,028	2,996	15.7%

2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移 連結

[単位:百万円未満切捨]



2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨]

	2013年3月期 期末 ＜実績＞	2014年3月期 期末 ＜実績＞	前年 同期比	2015年3月期 中間予想 ＜2014/5/7公表＞
売上高	12,518	13,531	108.1%	7,200
売上総利益	2,068 (16.5%)	2,282 (16.9%)	110.4%	— (—)
営業利益	970 (7.8%)	1,074 (7.9%)	110.7%	— (—)
経常利益	1,115 (8.9%)	1,296 (9.6%)	116.2%	670 (9.3%)
当期純利益	665 (5.3%)	799 (5.9%)	120.2%	450 (6.3%)

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金: 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金: 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金: 15]	
	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末
売上高	1,439	1,484	102	84	136	48
売上総利益	309	380	2	4	45	2
営業利益	124	138	▲ 19	▲ 16	0	▲ 23
経常利益	132	161	▲ 19	▲ 16	0	▲ 23
当期純利益	76	91	▲ 12	▲ 11	12	▲ 26
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	90.0%	0.0%

【注】 2014年1月31日に「株式会社クレスコ・コミュニケーションズ」の株式譲渡を行い、クレスコグループから外れました。

2.5. 損益計算書 [要約]②

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・アイディー [資本金: 100]		 アイオス [資本金: 313]		 クレスコ九州 [資本金: 50]	
	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末
売上高	54	113	3,794	3,637	171	209
売上総利益	11	34	489	514	19	24
営業利益	▲ 18	1	161	186	▲ 4	3
経常利益	▲ 18	1	171	199	▲ 4	3
当期純利益	▲ 20	1	100	97	▲ 3	0
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2.5. 損益計算書 [要約]③

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ北陸 [資本金: 50]		 科礼斯軟件(上海) [資本金: 70]		 シースリー [資本金: 20]	
	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末
売上高	577	616	5	64	320	975
売上総利益	116	122	▲ 2	3	70	136
営業利益	38	48	▲ 17	▲ 19	29	42
経常利益	39	48	▲ 30	▲ 26	30	47
当期純利益	1	24	▲ 30	▲ 26	16	28
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	70.0%	70.0%

2.5. 損益計算書 [要約] ④

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クリエイティブジャパン [資本金: 30]	
	2013年3月期 期末	2014年3月期 期末
売上高	-	1,482
売上総利益	-	237
営業利益	-	80
経常利益	-	80
当期純利益	-	51
持分比率	-	100.0%

【注】 2013年4月1日に「クリエイティブジャパン」を子会社化したしました。

3.1. 基本方針

次世代クレスコの推進と収益力向上 信頼と成長

私たちは
「メインITソリューション・パートナーを目指す」こと、
「ワンストップ・ソリューションを提供する」ことの2つをビジョンとして掲げ、
グループ企業と一丸となり、将来に向けて精進してまいります。

- ▶ 2014年度は、次世代クレスコの仕上げに入る段階であり、計画の実行とレビューを通して、更なる収益性の改善と企業価値の増大に向け、重点施策の具現化を推進してまいります。
- ▶ 業績の飛躍に必要な投資(製品/サービス関連イベント開催、人材採用、社員教育、先端技術研究等)は積極的に行ってまいります。
- ▶ コーポレートガバナンス強化とコンプライアンス経営の徹底を実施し、主体的にその社会的責任を果たしてまいります。

3.2. 重点施策

- ▶ 「技術と品質のクレスコ」の推進と技術研究所の強化
企業グループ全体の「品質マネジメント力」の向上と先端技術を活用したビジネスの実現
- ▶ 組込関連事業の再構築と新ビジネスモデル創出
近距離無線関連のソリューション開発および機能安全関連の事業領域拡大
- ▶ グループ連携強化による収益性の改善と企業価値の増大
協業による新規ソリューションの開発、クロス営業の強化、高度スキル人材の育成
- ▶ ニアショア開発、オフショア開発の推進
地方分散開発体制強化と海外開発体制（中国、ベトナム）の整備
- ▶ クラウド関連ソリューションの展開
第3のプラットフォームを取り込んだソリューション提案の実行

3.3. 今後の見通し、株主還元方針など①

1 経営環境

当連結会計年度(2013年4月1日～2014年3月31日)の経営環境は、アベノミクス効果の実体経済への波及を実感する1年でした。企業のICT投資意欲も前向きな動きに転じ、リーマンショック前の水準に回復し、ICT投資の戦略テーマも「売上増大への貢献」や「顧客サービスの質的向上」といったビジネス指向が増加しております。引き合い案件や受注案件の内容をみてもビジネスイノベーションに向けた取組みが増加しており、デフレ脱却に向けた経済回復の勢いに手ごたえを感じております。

2 今後の見通し

2014年度の国内企業のIT投資は、クラウドやモバイル端末(スマートフォンやタブレットPC等)を利活用したシステムへの移行、ICTシステム基盤の統合・再構築、ビジネスプロセスの可視化・最適化、ビッグデータの分析・活用、仮想化技術の導入、ソーシャル・テクノロジーのビジネス活用、オープンソース・ソフトウェアの活用など、第3のプラットフォームといわれる「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」に関連する市場の成長が見込まれます。当社企業グループの足許の営業状況を鑑みましても、ICTを含む設備投資は、新年度以降も成長、拡大するものと予測しております

3.3. 今後の見通し、株主還元方針など②

3 今後の事業展開

2014年度のICT投資分野は、顧客情報・営業支援、生産・在庫管理、販売管理、経営情報・管理会計といった、本業に直結する基幹系システムや情報系システムの需要が増加すると予測しております。

当社企業グループの主な事業領域は、システム・インテグレーションサービスやICTコンサルティングなどのプロジェクトベースとなっておりますが、「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」といった開発トレンドをしっかりと取り込み、多様化するマーケットニーズへスピーディに対応してまいります。

また、当社企業グループ各社が長年培ってまいりました技術と経験を活かして、顧客の環境変化をいち早く捉え、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、他社との共同研究やアライアンスビジネスも含めた事業を展開してまいります。

4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。

なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。